

2014年度 後期		リフレクションペーパー				
学科名	電気通信工学科					
科目名	電気回路 I 演習					
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次後期	
必修・選択の別	必修(組込みシステムコース)/必修(電気エネルギーコース)/必修(情報システムコース)					
担当者	原谷 直実					
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・キルヒホッフの法則とオームの法則を電流平衡式・電圧平衡式に正しく適用し、回路各部の電流・電圧を求めることができる。(A6,A7) ・重ねの理や回路方程式を用いて、多電源直流回路の解析ができる。(A7) ・等価電圧源や等価電流源を求めることができる。(A7) ・電源の供給電力と抵抗素子の消費電力、回路の消費電力を理解し、計算することができる。(A7) 					
日程と内容	<p>第1回 : 09/16 : 導入講義 : 授業の進め方と概要の説明、成績評価法等、授業に関する重要情報 (第1ピリオド演習) 電気回路と電気基礎量、電源、キルヒホッフの法則、オームの法則と回路方程式、抵抗値とコンダクタンス、直列接続と並列接続、合成抵抗など、演習問題と解説</p> <p>第2回 : 09/30 : (第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第3回 : 10/07 : (第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第4回 : 10/14 : (第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第5回 : 10/21 : (第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第6回 : 10/28 : (第2ピリオド演習) 回路方程式、電力、演習問題の解説</p> <p>第7回 : 11/04 : (第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第8回 : 11/18 : (第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第1ピリオド追試験</p> <p>第9回 : 11/25 : (第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第1ピリオド追試験</p> <p>第10回 : 12/02 : (第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第1ピリオド追試験</p> <p>第11回 : 12/09 : (第3ピリオド演習) 多電源回路と回路方程式、重ねの理、テブナンの定理、ノートンの定理、等価電源、電源の変換、最大電力、演習問題の解説</p> <p>第12回 : 12/16 : (第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第13回 : 01/13 : (第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第2ピリオド追試験</p> <p>第14回 : 01/20 : (第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第2ピリオド追試験</p> <p>第15回 : 01/27 : (第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第2ピリオド追試験</p>					
成績評価基準	定期試験		実技			
	臨時試験		部外評価			
	報告書・レポート		プレゼンテーション			
	課題					
	演習	100%	計			100%
授業到達目標の達成度	実施した「ピリオド試験」12回をすべて受験(これを定期試験受験者としている)して不合格になった学生は3名だけである。そのうち2名は59点であった。実質受講者はほぼ全員到達目標を達成したといえる。					
反省点	毎回の試験の答案が作成できないごく一部の学生については、授業時間が無意味なものになっている。このような学生でも繰り返し努力することで徐々にできるようにはなっているようである。					
来年度の計画	無意味な時間を過ごす学生に対して、有効な時間を過ごさせる工夫をしたい。					
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の遷移を見てみると、6.9(2007年度)→7.5(2008年度)→7.9(2009年度)→7.7(2010年度)→8.2(2011年度)→8.6(2012年度)→7.6(2013年度)→7.8(2014年度)となっているが、特に授業の実施方法を大きく変更しているわけではない。					
履修登録者数	67名	定期試験受験者数	58名	合格者数	55名	合格率 95%